

第4期北海道自殺対策行動計画（素案）についての意見募集結果

令和5年（2023年）2月28日

第4期北海道自殺対策行動計画（素案）について、道民意見提出手続により、道民の皆様から御意見を募集したところ、2名の方から、延べ4件の御意見が寄せられました。

御意見の要旨及び御意見に対する道の考え方については、次のとおりです。

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>人との関わりが少なくなり、自分の中だけで結論を出そうとすると生きる意味を見いだせないこともあると感じる。そのため、地域や自治体とのかかわりを通して必要性や存在意義を見出していくことが重要。</p> <p>一生懸命であることに生き疲れを感じるところもあり、社会的な支えがある中で生活・仕事ができることが重要。</p> <p>自分に価値を見いだせず、これからの困難を乗り越える体力がないと感じ、「もう疲れた」と感じるがあると思うが、そういった感情に対してサポートできる場所が必要。</p>	<p>本計画に基づき、各種相談窓口等の社会的支援の体制確保や道民の皆様への周知を図っていきたいと考えております。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>北海道の総意として、自殺防止など本当に思っているのか。追い詰められている人は相当数いるのではないか。例えば劣悪な地方に職員を飛ばして家族や生活を破壊するようなことは、自殺されても構わないという未必の故意に他ならないのではないか。学校のいじめ対策に見られるように自殺さえされなければたいした問題ではないかのように扱う姿勢にも問題がある。未だ問題にされていない行為は多いことに目を向け、人間の尊厳を踏みにじるあらゆる行為を追放すべき。</p>	<p>本計画に基づき、北海道自殺対策庁内連絡会議等において各関係部局との連携を図りながら、道として自殺対策を推進していきたいと考えております。いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">C</p>

<p>対策に効果を感じるものが見られない。自殺の原因になるものから逃げるのが防止につながると考えており、例えば人間の尊厳が守れる仕事に年齢を問わず就けるようになるだけで相当数が救われると思うが、そのような仕事は極めて少ないのが現実ではないか。中高年ですら救済できないのだから、子どもや若年層が将来に絶望する気持ちも十分理解できる。最も自殺者数の多い中高年ですらこれまで満足に解決できていないのに、子どもや女性にまで手を広げて解決できるのか。</p>	<p>本計画に基づき、自殺者の増加傾向が見られる子どもや女性のほか、中高年求職者等への支援も含め、自殺防止に向けた取組を実施していきたいと考えております。</p> <p>御意見を踏まえ、中高年求職者への支援について明記するよう、案を修正しました。</p>	A
<p>道のパブリックコメントのホームページのリンクから行けるのは保健福祉部の業務を羅列したページであり、探さなければこのパブリックコメントのページにたどりつけないようなことをしているのを見ると、意見を聞く気があるのか疑う。</p>	<p>いただいた御意見は、今後のパブリックコメントの実施にあたり参考とさせていただきます。</p>	C

※「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

区分	意見等の反映状況
A	意見を受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問い合わせ先

保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課精神保健医療係
電話 011-231-4111 (内線 25-736)